

2014年3月31日発行

奈良教育大学 大学院 教育学研究科
専門職学位課程教職開発専攻
〒630-8528 奈良市高畑町
TEL&FAX 0742-27-9354
<http://www.nara-edu.ac.jp>
発行 奈良教育大学 教職大学院広報係

Newsletter

奈良教育大学 教職大学院 2013.vol.4(22)

目次

1. 2013年度学位授与式 P.1
2. 修了生 学位研究報告書のテーマと学びの振り返り P.2 ~ P.4
3. キャリア教育シンポジウムに参加して P.4
4. あとがき P.4

1 2013年度学位授与式



キャンパスの桜がほころび始め、うららかな春の日差しが降り注ぐ2014年3月25日、奈良教育大学学位授与式が挙行政され、教職大学院からも修了生第5期生14名が巣立ちました。友情を育み、苦楽をともにした仲間やお世話になった恩師と別れを惜しみ、涙する姿が印象的でした。

ちょうど前後して、新規採用者の赴任先が内示されましたが、4月から教壇に立つ彼ら自身が教え子の成長の節目に立ち会い、喜びをともにしていくことになるのでしょうか。それぞれの新しい環境のなかでも、力強く歩んでくれることを心から願っています。

新宮 済



テーマ

地域教材と学習過程を工夫した社会科の授業づくり

奈良県の発掘調査現場で学んでいた経験から「古都奈良にあふれる文化財のすばらしさを子どもたちに伝えたい」という思いを胸に教職大学院の門を叩きました。この3年間で、奈良県で働く先生方と出会い、研究発表や日々の授業に参加参画させていただきました。教師の背中を真近で見て学ぶことでできた時間は、自分にとって大きな財産です。この経験を奈良で学ぶ子どもたちの成長に役立てるように走りつづけたいと思います。

伊藤 愛



低学力の児童を支援する指導方法の研究

—ロールプレイを用いた指導—

「だれの為の授業なのか」そのようなことを考えたのは、大学院に入学したあとでした。それまで私は「自分の為」に授業をしてきたことを反省すると同時に、授業は「子どもたちの学び」に繋がらなければならないということに気づくことができました。教職大学院で試行錯誤しながら臨んだ課題研究を経て、今、少しずつ「子どもたちの為の授業」ができつつあると感じています。教職大学院の先生方や、実践校の先生方に成長した姿をお見せできるように、これからも「子どもたちの為の授業」を目指し精進し続けて参ります。

片尾 克年



高等学校におけるキャリア教育の構築を通じた学校改善

教職大学院で、これまでの実践をあらためて見つめ直す機会をいただいた。教育活動の充実には、基礎的・汎用的能力の育成に鍵があると気づき、生徒と教員のキャリア発達に関する意識調査を行い、その意識に大きな開きがあることがわかった。この意識の差を解消すべく勤務する高校で、キャリア教育の視点で授業改善を学校全体で取り組んだ。このような貴重な機会を与えていただいたこと、また2年間支えてくださった方々に深く感謝します。

庄野 敦子



思考力を高める指導方法の研究

～「事象を関連付けて考える力」に着目して～

小学校の教員になることを目指して、自分に足りない力を身に付ける。そんな目標をもって、この2年間を過ごしてきました。振り返れば、どんな時も支えてくれた仲間がいて、それが何よりの宝物であると気付くことができました。これからも、そんな人と人との温かい繋がりを大切にしながら子どもたちを育て、自分も子どもたちから学び、成長し続けていきたいと思っています。

杉崎 栄一



予防的・開発的生徒指導の視点に立つ「ピア・メディエーション（仲間による調停）」の学校教育への導入に関する研究

私は、入学当初、「教職大学院は、懐かしい場所。」と書きました。それから早二年、教職大学院は、懐かしい場所である以上に新しい世界が広がった場所でした。現場で働いているだけでは、知りようも無かった研究の世界。これは、自分自身のライフキャリアに大きな影響を与えました。そのような機会を与えて下さった教育委員会の皆様、教職大学院の先生方に感謝をしつつ、今後も子どもたちのために邁進していきたいと思っています。

田中 直毅



つまずきから考える授業設計

—つまずきから考える教具開発の実践—

自分の授業力と向き合い、改善するためにどのような取組が必要だろうか。それを知ることができたのが教職大学院での一番の学びです。また、課題研究である「つまずきから考える授業設計」に取り組むことができたのは、学校実践を行わせていただいた学校の先生方、児童生徒のみなさん、保護者の皆様のおかげです。ありがとうございました。

峠 香織



「エピソード記述」による読み聞かせ実践の省察

—自らの教師としての在り方を考える—

少しでも沢山のことを経験しようと思っているうちに、瞬間に二年間が過ぎてしまいました。教職大学院での学びは、講義や本の中だけでは決して得ることができないものでした。学校実践では、実際に授業をさせていただいて初めて、学校における「人との連携」の重要性によりやく気づくことができました。今後は教わった様々なことを胸に、それを自分の大切な人に伝えていきたいと思います。

ありがとうございました。

土海 稚奈



伝え合う力を高める中学校国語科の授業について

各学校実践ではご多用の中受け入れてくださり、感謝しております。先生方から丁寧に授業計画から生徒指導まで丁寧に助言頂いたことは、自身の教員としての自覚・教科の専門性の向上に繋がりました。この経験と大学院での学び、他の活動などの経験をとおり、自らを省察し、生徒にとってより良い授業をするための計画を立てる力を高めることができました。これらの経験を生かし、これからも生徒と真摯に向き合っていこうと思います。

中澤 哲也



小学校社会科における「思考・判断・表現」を重視した授業開発

—ESDの視点を取り入れて—

「学ぶ喜び」とは何か。4年間をふり返るとその答えを探し続けていた気がします。その中で、背中を押してくださった大学の先生方、現場の魅力を教えてくださった現職の先生方に出会い、私を鍛えてくれたたくさんのお子さんたちと出会い、己を磨き合える仲間に出会い、そしてESDに出会いました。「学ぶ」ことでたくさんのお出会いがあり、新しい道も開くことができました。「学ぶ」ことで出会える「喜び」をお子さんに伝えていきたいです。

英 優美



小・中学校間の学びをつなげる社会科歴史的分野の単元開発

今振り返れば、教職大学院での2年間は「中学校の先生でいい」ではなく、「中学校の先生しかない」という覚悟と自信を築くための貴重な時間であったと思います。温かく見守ってくださった先生方、かけがえない院生仲間と過ごした時間、得た学びを必ず4月から赴任する学校現場で生かしていきます。そして、教師として学び続ける姿勢を示し、子ども達に学ぶ喜びを伝えていける教師になります。

松浦 慎



人間関係づくりを基礎にした学級経営・授業の改善

—レクリエーション的要素を生かして—

「忘れられない時間がある。」、振り返ってそう言える充実した時間を過ごさせていただきました。最新の理論を学んだ授業は勿論、「教職大学院生」という時間を活用し、様々な分野へのチャレンジを通して、現場だけでは学べない貴重な経験を重ねることができました。改めて、教師自身の「本物」を目指す営み（学び続けること）が大事であると実感しました。これからも「本当の学ぶ楽しさ」を追究し、子どもたちに還元していきたいです。

的場 雄樹



プロジェクト型学習を通じた小学校外国語活動の実践研究

教職大学院での2年間、毎日が新たな発見と反省でした。また学校実践の「理論と実践の往還」において、やはり人と人との「つながりの大切さ」に改めて気づかされました。この度、本学教職大学院を修了するにあたり、見守ってくださった先生方、連携協力校の先生方、共に学び合えた院生の仲間たち、そして出会えたすべての子どもたちに感謝しております。これからも自らを磨き続け、成長していきます。ありがとうございました。

山崎 秀紀



学級にケアを生み出す教育実践の検討

民間企業から、再び学生として本学大学院に入学したとき、人生で今しかできないことをしたいと強く求めました。思い返すとこの2年間、折り合いをつけることも忘れて目の前の課題に向かうことだけに没頭した気がします。それだけ刺激にあふれ、学びたい意欲が湧き出てくる環境でした。支えて下さった方、本気でご指導下さった先生方に心から感謝しています。この期間で培った全てを子どもたちの教育に返していきたいと思います。

米澤 奈甫子



学び合いを生かす授業方法に関する研究

～道具とルールに着目した支援～

私の2年間の大きな収穫は、学校現場に出る自信がついたことです。それは、努力の方法を学んだからです。「能力の問題ではなく方法を知らない」そう考えるようになったことで、自分自身の課題と向き合い、周りの人や先人から学ぶようになりました。また、5つの学校と多くの子ども、先生方との出会いは、教員人生を支える大きな財産です。この2年間の学びを生かして、児童とともに前向きに成長し続ける教員になります。

3 キャリア教育シンポジウムに参加して

M2 ストレート院生 宮崎 有里

3月21日(金)、本学にて、キャリア教育シンポジウム「キャリア教育としての教員養成カリキュラムの開催」が開かれました。シンポジウムでは、元兵庫教育大学特任教授の Darryl T Yagi 先生、早稲田大学教授の三村隆男先生の基調講演の後、院生3人が、教職大学院でのキャリア形成について振り返るとともに、2月に実施した米国での研究発表(米国カリフォルニア州の小・中・高等学校等での発表)の成果についても報告しました。



教職大学院に入学するまでの私は、キャリア教育を「進路や就職を目的とする」教育と認識していました。しかしながら、キャリア発達とは『人生』という広い範囲で捉え、人それぞれがさまざまな経験や出会いを通し、年輪の様に成長していくことなのだと思えることができました。



このシンポジウムで、自身の軌跡や学びを発表することができたのは、「キャリアデザイン」や「キャリア教育実践論」等の学びがあったからだと感じました。今後より一層、キャリア教育の学びを深め、実のあるものにしていきたいと考えています。

4 あとがき

本学教職大学院第5期生14名が巣立っていきました。4月から教壇に立つ彼らに、教員に必要な5つの「しんぼう」という言葉を贈ります。

すぐ思いあたる漢字は堪え忍ぶの「辛抱」かもしれませんが、①ここでの「辛抱」は、子どもたちの学びの過程をじっくり見守るまなざしです。②子ども・保護者からの「信望」は字のとおり。③教育への情熱の源はハート「心房」です。④教職大学院で培った理論と実践をしっかりと「心棒」で結びつけ、教育活動を展開していただきたい。⑤最後は、「深謀」です。深謀遠慮といわれるように、奥深い見通しをもった教育観は不可欠です。持ち前の若さとパワーを発揮し、自分なりの道を切り開いてくれることを期待しています。(樋口)